

2025年度 第3四半期 決算説明資料

対象期間：2025.4.1-2025.12.31

2026年2月12日

明治ホールディングス株式会社

I R 部を管掌しております、CFOの菱沼でございます。

それでは、2025年度 第3四半期決算について、当社ホームページに開示しました「第3四半期決算説明資料」に沿ってご説明いたします。

2025年度 第3四半期 連結決算のハイライト

(億円)	24年度 1-3Q実績	25年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	25年度 通期計画 (11月修正)
売上高	8,750	8,823	+0.8% +73	75.0%	11,770
うち、海外売上高	1,179	1,177	△0.1% △1	74.5%	1,582
営業利益	664	700	+5.4% +36	77.0%	910
営業利益率	7.6%	7.9%	+0.3pt	—	7.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	436	388	△11.0% △48	71.9%	540
E P S	159.38円	143.24円	△16.14円	—	197.80円

- 売上高は食品増収、医薬品減収。通期計画に対して想定通りの進捗
- 営業利益は食品、医薬品ともに増益。通期計画に対して想定通りの進捗
- 四半期純利益は減益。生産体制変更に伴う減損損失が発生。投資有価証券売却益なども減少

第3四半期累計期間の連結売上高は8,823億円、前年同期比0.8%増となりました。営業利益は700億円で、前年同期比5.4%増となりました。

通期計画比では、売上高、営業利益ともに順調に推移しています。

四半期純利益は388億円、前年同期比11.0%減となりました。

生産体制の変更に伴う減損損失の発生や、投資有価証券売却益の減少が主な要因です。前年同期比では減益に見えますが、通期計画に対しては、堅調に推移していると捉えています。

食品：2025年度 第3四半期 決算概要

(億円)	24年度 1-3Q実績	25年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	25年度 通期計画 (11月修正)
売上高	7,016	7,111	+1.3% +94	76.1%	9,350
営業利益	494	536	+8.4% +41	75.6%	710

営業利益 増減分析

24年度1-3Q実績	494		国内：+30 海外：+11
売上増減		+216	：価格改定効果+356 数量やプロダクトミックスの変動など△140
原価の変動		△164	：原材料コスト（カカオ、国内生乳など）△176 容量変更などによる原価低減 +12
マーケティング費用等の変動		△15	：物流費や販売間接費（DX関連費用など）の増加、宣伝費の減少
その他費用の変動		△0	：海外事業拡大のための先行投資費用含む一般管理費の増加、 減価償却費など製造間接費の減少
その他（子会社損益含む）		+5	：海外は米国好調、中国のデイリーはリバイバルプラン進展 で利益改善、中国のカカオは原材料コスト増で減益
25年度1-3Q実績	536		

2 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

続いて、セグメント別の概要です。

食品セグメントの売上高は7,111億円。前年同期比で1.3%増となりました。また、営業利益は前年同期比8.4%増の536億円となりました。国内・海外ともに増益の結果となりました。

増減要因を見てみますと、グラフのとおり「原価の変動」は164億円の減益要因となりました。原価低減に取り組んだものの、原材料コストが176億円増加しました。

これに対し、「売上増減」は216億円の増益要因となり、原価アップを上回りました。

「売上増減」の内訳は、価格改定のプラス効果が356億円、数量減やプロダクトミックスの影響が140億円となっております。

「マーケティング費用等の変動」は15億円の減益要因となりました。宣伝費は減少したものの、物流費や販売間接費が増加しました。

「その他子会社損益等」は5億円の増益要因となりました。米国子会社が好調だったことに加え、中国デイリー事業の収益改善の取り組みが進展しました。

食品：2025年度 第3四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	デイリー	カカオ	ニュートリ ション	フード ソリューション	その他
24年度1-3Q営業利益	494	162	113	132	65	21
売上増減	+216	+46	+102	△1	+78	△9
原価の変動	△164	△13	△70	△19	△55	△7
経費等の増減	△15	+9	△10	△0	△9	△5
マーケティング費用等の変動	△15	△1	△12	+2	△8	+3
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△0 (△6)	+9	+1	△2	△1	△8
その他 (子会社損益など)	+5	+7	△8	+3	△1	+4
25年度1-3Q営業利益	536	210	127	115	78	3

3 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

次に、事業別の利益増減要因をご説明します。3 ページ目をご覧ください。

「売上増減」は、デイリー事業、カカオ事業、フードソリューション事業で価格改定効果が大きく貢献し、増益要因となりました。ニュートリション事業は、乳幼児ミルクの数量減が響き、減益要因となりました。

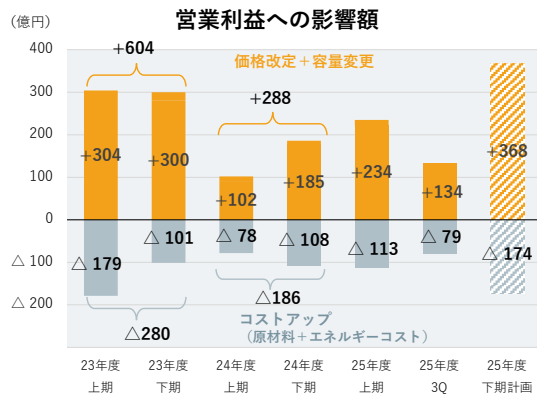
「原価の変動」は、カカオ原料のコストアップが大きく、カカオ事業やフードソリューション事業で、マイナス影響が大きくなりました。また、生乳価格については、6月からの加工向けの乳価改定の影響が、主にフードソリューション事業に発生しており、8月からの飲用向け・発酵乳等向けの乳価改定の影響は、主にデイリー事業に発生しております。

「マーケティング費用等の変動」は15億円の減益要因となりました。カカオ事業で拡売費や宣伝費、フードソリューション事業では物流費が大きく増加しました。

「その他費用の変動」は全体は0となりましたが、デイリー事業では生産体制の変更などが寄与し、製造間接費が減少しました。その他事業には事業拡大のための先行投資費用が計上されています。

「その他・子会社損益」は5億円の増益要因となりました。デイリー事業では、中国子会社のリバイバルプランによる利益改善がありました。一方、カカオ事業はチョコスナックの販売が好調な米国子会社が増益となりましたが、中国子会社が原材料高騰の影響や製造間接費の増加により減益となりました。

食品：コストアップ環境下における利益確保に向けた対策強化



コストアップの見通し

- カカオ原料や国内生乳、海外乳原料を中心に原材料コストの上昇は下期も続く
- 足元のカカオ原料相場は下落しているものの、高値圏で確保した在庫の使用が続くため、メリット発現は26年度下期を見込む
- 為替動向やサプライチェーン上のコストアップ (人件費、物流費など) は引き続きリスク要因

➤ コストアップが長期化する前提に立ち、「価格転嫁」×「付加価値戦略」×「コスト構造最適化」に引き続き取り組む

25年度の主な価格改定

25年6月	チョコレート ザバス (バー)	+10-36% +8-9%
7月	チーズ バター・マーガリン	+3-4% +3-11%
8月	ヨーグルト 飲料 (牛乳ほか) ザバス (ミルク)	+2-17%
9月	アイスクリーム	+5-9%

続いて、コストアップへの対応について説明します。

左上のグラフのとおり、24年度下期からコストアップ額は増加している状況です。

25年度下期もカカオ原料や国内で調達する生乳、海外乳原料を中心に、原材料コストは上昇する見通しですが、全体としては想定通りの進捗となっています。

なお、カカオ相場は下落傾向にあるものの、高値圏で確保した在庫の使用が当面は続くため、メリットが発現するには少し時間がかかります。また、円安進行や、人件費・物流費の上昇傾向は引き続き重要なリスク要因です。

長期化するコストアップに対して、「価格転嫁力」を維持しながら、「付加価値戦略」と「コスト構造の最適化」にも引き続き取り組んでいきます。

食品：2025年度 第3四半期 事業概況

■ デイリー事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	2,052	+0.8% +15	2,734	+0.8% +20
うち、国内	2,024	+0.7% +14	2,691	+0.4% +11
海外	27	+3.5% +0	42	+29.2% +9
営業利益	210	+30.0% +48	279	+17.4% +41
うち、国内	232	+19.1% +37	307	+9.3% +26
海外	△21	— +11	△27	— +15

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
プロバイオティクス	714	+3.1%	938	△1.9%
ヨーグルト	599	+3.1%	789	+3.3%
市販・宅配牛乳	599	+0.2%	788	+1.0%

■ 国内

● 市場 (1-3Q)

- ヨーグルト (機能性含む) : +3~4%
- 牛乳 : 前年並み

● 「R-1」は継続的なプロモーション施策の奏功により伸長
宅配は引き続き課題 (市販+6.3%、宅配△2.2%)● 10月発売の「ヘモグロビンA1c対策ヨーグルト」は
計画を上回って推移

● 「ブルガリアヨーグルト」は主力のプレーンタイプが伸長

● 価格改定効果や製造間接費の減少により増益

■ 海外

- 中国のリバイバルプラン (不採算取引や販売体制見直し)
の進展により営業損失が縮小

続いて、事業別に説明してまいります。

利益については先ほどご説明しましたので、売り上げを中心に説明します。

まずはデイリー事業です。国内では、期初から継続的にプロモーション施策を実施してきた効果もあり、R-1が好調に推移しました。

また、10月に発売したヘモグロビンA1c対策ヨーグルトも、当初の計画を上回る売り上げとなっており、プロバイオティクスは前年同期を上回りました。

ヨーグルトも増収となりました。ブルガリアヨーグルトの主力であるプレーンタイプが伸長したことで、収益性の改善も進んでいます。

海外では、中国事業のリバイバルプランに取り組んでいます。不採算取引や販売体制の見直しなどによる収益性の改善は着実に進んできましたので、現在は良質な売り上げの拡大に取り組んでいます。

食品：2025年度 第3四半期 事業概況

■ カカオ事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	1,373	+8.7% +109	1,771	+3.6% +61
うち、国内	851	+9.6% +74	1,123	+4.7% +50
海外	521	+7.3% +35	648	+1.8% +11
営業利益	127	+12.2% +13	176	+8.2% +13
うち、国内	115	+24.5% +22	162	+19.5% +26
海外	12	△41.3% △8	13	△49.1% △13

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
チョコレート	867	+9.7%	1,167	+5.8%

■ 国内

- 市場 (1-3Q)
 - ・ チョコレート：+7～8%
 - ・ グミ：+11～12%
- チョコレートは、ミルクチョコレート99周年施策により無垢チョコ好調
- 新商品「生のとき」も計画を上回って推移
- グミは新商品が寄与し増収
- 宣伝費などが増加するも、価格改定効果により増益

■ 海外

- 中国での主力チョコレート群の伸長と、米国でのチョコスナックの販売拡大により増収
- 中国は原材料コストや製造間接費の増加などにより減益
- 米国は増収により増益

続いて、資料6ページ、カカオ事業についてご説明します。

国内では、チョコレートは、昨年度からの価格改定によるプラス効果に加え、無垢チョコやチョコレートスナックなどが好調に推移しました。

グミは、果汁グミの新商品などが寄与し増収となりました。

海外では、米国でハローパンダが新規採用の拡大などにより、大幅に伸長していることに加え、中国でも、メルティーキスや板チョコなどが好調に推移しました。

食品：2025年度 第3四半期 事業概況

■ ニュートリション事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	924	△2.8% △26	1,176	△1.1% △13
うち、国内	848	△2.0% △17	1,069	△1.8% △19
海外	76	△10.0% △8	106	+5.5% +5
営業利益	115	△13.0% △17	132	△7.3% △10
うち、国内	116	△17.3% △24	135	△12.6% △19
海外	△1	— +7	△3	— +9

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
乳幼児ミルク・流動食	514	△5.0%	668	△2.8%
スポーツ栄養	422	+3.1%	519	+0.3%

■ 国内

- 市場 (1-3Q)
 - ・ スポーツプロテイン (飲料) : +3~4%
- 乳幼児ミルクはインバウンド縮小により減収
- 「ザバス (粉末)」は販促強化により前年並みを維持
- 「ザバスミルク」は価格改定後も好調を維持
- 原価アップに加え、乳幼児ミルクの減収により減益

■ 海外

- 乳幼児ミルクの輸出が低調
- 前年同期に発生した事業拡大のための先行投資費用の反動により営業損失が縮小

続いて、資料7ページ、ニュートリション事業です。

国内では、乳幼児ミルクが、インバウンド需要縮小の影響などにより減収となりました。

スポーツプロテインは、粉末タイプのザバスが廉価品の参入による競争激化の影響を受け苦戦しましたが、販促強化によりソイタイプが好調で、前年並みとなりました。飲料タイプのザバスミルクは販促や売場での露出強化が奏功し増収となりました。

海外では、乳幼児ミルクの輸出販売が低調で減収となりましたが、営業利益については、前期に事業拡大に向けた先行投資費用の発生がありましたので、今期はその反動により損失が縮小しました。

食品：2025年度 第3四半期 事業概況

■ フードソリューション事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	1,552	+3.8% +56	2,068	+6.0% +116
うち、国内	1,462	+3.9% +55	1,938	+6.1% +111
海外	90	+1.6% +1	129	+3.8% +4
営業利益	78	+20.5% +13	116	+44.2% +35
うち、国内	106	+11.9% +11	151	+24.9% +30
海外	△27	— +2	△34	— +5

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
BtoB	782	+5.6%	1,019	+3.7%
市販チーズ	215	+4.9%	280	+4.5%
市販アイスクリーム	419	+4.9%	516	+5.0%

■ 国内

- BtoBはクリームやカカオなどが増収
- 市販チーズはカマンベールが好調に推移
- 市販アイスクリームは主力品が伸長
- 物流費などが増加するも、価格改定効果により増益

■ 海外

- 中国の業務用クリームや業務用牛乳が増収
- 中国のアイスクリームは競争激化により減収
- コスト削減の取り組みにより営業損失は縮小

続いて、資料8ページ、フードソリューション事業についてご説明します。

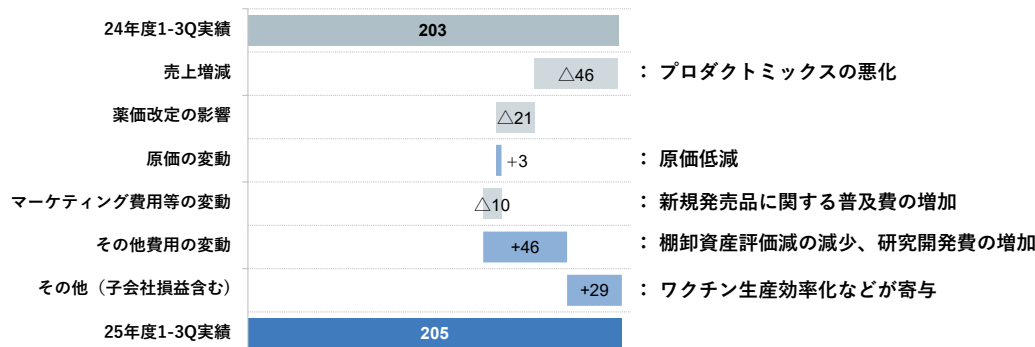
国内では、BtoBは、価格改定に加えて、クリームやカカオの提案強化が増収に寄与しました。市販のチーズやアイスクリームも主力品が伸長しました。

海外では、中国のBtoBのクリームや牛乳が増収となりましたが、アイスクリームは、競争激化により減収となりました。

医薬品：2025年度 第3四半期 決算概要

(億円)	24年度 1-3Q実績	25年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	25年度 通期計画 (11月修正)
売上高	1,740	1,722	△1.1% △18	70.8%	2,433
営業利益	203	205	+1.1% +2	79.1%	260

営業利益 増減分析



9 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

続いて、医薬品セグメントです。

売上高は1,722億円、前年同期比 1.1%減となりました。

営業利益は205億円、前年同期比 1.1%増となりました。

グラフのとおり、「売上増減」は46億円の減益要因となりました。昨年5月発売の「レズロック」が伸長したものの、主力の抗菌薬が低調に推移しました。

また、コロナワクチン「コスタイベ」の2ドーズ品の出荷が始まったことによりプロダクトミックスが悪化しました。

「薬価改定の影響」は21億円の減益要因になりましたが、「原価の変動」は、原価低減により3億円の増益要因となりました。

「マーケティング費用等の変動」は、新規発売品に関する普及費が増加し、10億円の減益要因となりました。

「その他費用の変動」は、研究開発費が増加したものの、前期に発生したコロナワクチン「コスタイベ」の棚卸資産評価減の反動により、46億円の増益要因となりました。

「その他子会社損益等」は29億円の増益要因となりました。KMバイオロジクスでのワクチン生産効率が改善したことなどが寄与しました。

医薬品：2025年度 第3四半期 国内主要領域別概況（※は収益認識基準適用前売上高）

(億円)		25年度 1-3Q実績		25年度 通期計画 (11月修正)	
			前年同期比		前期比
国内事業	感染症領域※1	310	△14.4% △52	458	△6.7% △32
	スルバシリン *	103	△12.0% △14	153	△6.2% △10
	タゾビヘ *	68	+2.3% +1	100	+7.6% +7
	メイアクト群 *	36	△36.0% △20	64	△15.5% △11
	免疫炎症領域※1	233	+30.8% +55	365	+40.6% +105
	血漿分画製剤 *	115	+17.4% +17	165	+28.2% +36
	レズロック *	65	+262.2% +47	89	+208.6% +60
	中枢神経系（CNS）領域※1	152	△11.4% △19	202	△7.4% △16
	ジェネリック医薬品※2	168	+7.0% +10	226	+8.8% +18
	ワクチン・動物薬事業				
	ヒト用ワクチン	319	+6.2% +18	419	+10.5% +39
	インフルエンザワクチン *	234	+4.5% +10	211	+1.3% +2
海外事業		465	△5.5% △26	657	+3.1% +19

10 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

※1 各領域のジェネリック医薬品含む
※2 各領域に含まれないジェネリック医薬品のみ

続いて、資料10ページ。主要品の販売状況について説明します。

感染症領域の抗菌薬は、前期ほど感染症の流行がなかったことなどにより、減収となりました。

免疫炎症領域では、昨年5月に発売した「レズロック」が、長期処方解禁もあり、大幅に伸長したことに加え、血漿分画製剤も好調に推移しました。

中枢神経系領域では、薬価改定の影響などにより減収となりました。

ヒト用ワクチンは、小児用ワクチンの4混から5混への切り替えが順調に進み、増収となりました。また、インフルエンザワクチンも、前期より総出荷数量が増加したことで、増収となりました。コロナワクチン「コスタイベ」の販売は、接種環境の改善が見られず、引き続き低調です。

なお、海外事業については、インドやスペインの子会社が、前期好調の反動や国内同様に感染症の流行がないことにより減収となりました。

以上、3Q決算のポイントをご説明しました。

2025年度計画：修正なし

(億円)	24年度 通期実績	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
明治ROESG	9.5pt	8.3pt	△1.2 pt
売上高	11,540	11,770	+2.0% +229
うち、海外売上高	1,531	1,582	+3.3% +50
営業利益	847	910	+7.4% +62
営業利益率	7.3%	7.7%	+0.4 pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	508	540	+6.3% +31
EPS	186.08円	197.80円	+11.71円
1株当たり配当金	100円	105円	+5円

(億円)	24年度 通期実績	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
総還元性向	112.8%	—	—
配当性向	53.7%	53.1%	△0.7 pt
ROE	6.8%	7.0%	+0.2 pt
ROIC	6.8%	7.0%	+0.2 pt
設備投資額	566	1,060	+87.4% +494
営業CF	689	584	△15.2% △105
フリーCF	283	△423	— △707

最後に、資料11ページをご覧ください。今期の見通しについてです。

第3四半期累計の業績が、11月に修正しました通期計画に対して順調に進捗しておりますので、変更はありません。

食品セグメントについては、ニュートリション事業や中国アイスクリーム事業は引き続き厳しい状況が続いていますが、好調なデイリー事業やカカオ事業でカバーし、通期計画達成を目指します。

医薬品セグメントについては、抗菌薬やコロナワクチンは厳しい状況となっていますが、レズロックが大きく伸長していることに加え、血漿分画製剤なども好調に推移していますので、こちらも通期計画達成に向けて、しっかりと取り組んでまいります。

以上で私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

2025年度 第3四半期 連結営業利益増減分析

(億円)	連結	食品	医薬品	他
24年度1-3Q実績	664	494	203	△33
売上増減	+171 *1	+216	△46	—
薬価改定の影響	△21	—	△21	—
原価の変動	△161 *2	△164	+3	—
経費等の増減	+21 *3	△15	+36	—
その他（子会社損益含む）	+27	+5	+29	△7
25年度1-3Q実績	700	536	205	△41

*1： 価格改定効果を含む

*2： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増（国内生乳、カカオ原料など）△176
その他（容量変更など）+12

【医薬品】 原価低減+3

*3： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動△15

【医薬品】 マーケティング費用等の変動△10、その他費用の変動+46

食品：2025年度 通期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	デイリー	カカオ	ニュートリ ション	フード ソリューション	その他
24年度通期営業利益	646	238	163	142	80	21
売上増減	+299	+53	+117	+15	+118	△4
原価の変動	△200	△15	△85	△27	△66	△7
経費等の増減	△41	△3	△8	△5	△19	△5
マーケティング費用等の変動	△37	△17	△16	+3	△12	+6
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△4 (△2)	+14	+8	△8	△7	△11
その他 (子会社損益など)	+6	+7	△10	+6	+2	△0
25年度通期営業利益 (計画)	710	279	176	132	116	4

食品：2025年度 第3四半期 海外事業概況

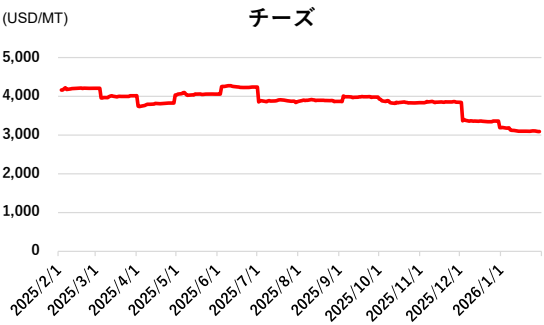
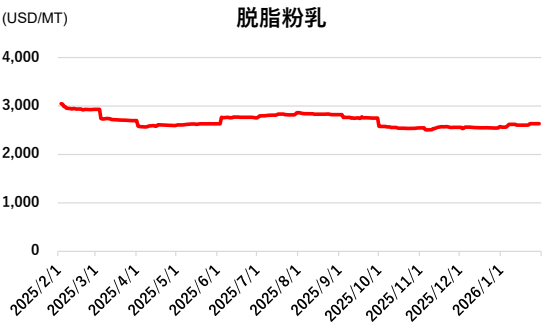
■ 海外事業

(億円)		25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
中国	売上高	202	+5.9% +11	275	+7.9% +20
	営業利益	△46	— +6	△60	— +10
アジア	売上高	229	△4.0% △9	300	△3.1% △9
	営業利益	12	△31.3% △5	18	+4.5% +0
欧米	売上高	306	+5.6% +16	390	+3.6% +13
	営業利益	17	+38.1% +4	20	+19.3% +3
海外 合計	売上高	712	+3.7% +25	924	+3.5% +30
	営業利益	△40	— +11	△55	— +18

食品：2025年度 第3四半期 海外事業概況（中国）

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年 同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	202	+5.9% +11	275	+7.9% +20
うち、デイリー	25	+2.8% +0	40	+31.8% +9
カカオ	97	+14.6% +12	119	+9.6% +10
ニュートリション	△0	— △1	△0	— △1
フードソリューション	80	△0.5% △0	115	+1.1% +1
営業利益	△46	— +6	△60	— +10
うち、デイリー	△16	— +11	△20	— +14
カカオ	△4	— △7	△7	— △7
ニュートリション	△1	— +3	△3	— +3
フードソリューション	△23	— △0	△30	— +0

主要輸入原料相場の動向



医薬品：2025年度 第3四半期 事業別概況

■ 国内事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	864	△0.7% △5	1,252	+6.4% +75
営業利益	144	△17.6% △30	180	△16.6% △35

● 売上高

- 24年5月発売「レズロック錠」や血漿分画製剤が伸長するも、抗菌薬が低調に推移し前年並み

● 営業利益

- 薬価改定の影響などにより大幅減益

■ 海外事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	465	△5.5% △26	657	+3.1% +19
営業利益	55	+4.5% +2	47	+32.7% +11

● 売上高

- インドやスペインの子会社が減収

● 営業利益

- 研究開発費の減少などにより増益

医薬品：2025年度 第3四半期 事業別概況

■ ワクチン・動物薬事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	392	+3.7% +14	523	+8.7% +41
営業利益	5	— +30	31	— +36

● 売上高

- 5種混合ワクチンの伸長による増収

● 営業利益

- 前年度発生の前年度資産評価減の反動やKMバイオロジクス利益率改善により黒字転換

医薬品：2025年度 第3四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
24年度1-3Q営業利益	203	175	52	△25
売上増減	△46	△6	△14	△26
薬価改定の影響	△21	△21	—	—
原価の変動	+3	+2	+1	△0
経費等の増減	+36	△10	+18	+28
マーケティング費用等の変動	△10	△6	△0	△3
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+46 (△16)	△4	+18	+32
その他 (子会社損益など)	+29	+4	△3	+28
25年度1-3Q営業利益	205	144	55	5

医薬品：2025年度 通期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
24年度通期営業利益	247	216	35	△5
売上増減	△2	+24	△13	△13
薬価改定の影響	△32	△32	—	—
原価の変動	+1	+1	+0	△0
経費等の増減	+35	△25	+22	+38
マーケティング費用等の変動	△5	△10	△5	+10
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+40 (△11)	△14	+27	+28
その他 (子会社損益など)	+11	△2	+3	+11
25年度通期営業利益 (計画)	260	180	47	31

医薬品：開発パイプラインー 1

	開発コード名（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
感染領域	OP0595* （ナキユバクタム）	β-ラクタマーゼ阻害薬	カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株による各種感染症	申請（日本） Phase III（海外）**
免疫領域	KD-380 （10%液状人免疫グロブリン）	血漿分画製剤	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）患者及び多巣性運動ニューロパチー（MMN）患者の急性期治療、維持療法	Phase III（日本）
	KD-416* （血液凝固第X因子製剤）	血漿分画製剤	血液凝固第X因子欠乏症患者の出血傾向の抑制	Phase III（日本）
新領域	ME3208 （ベルモスジル）	ROCK2阻害剤	慢性移植片対宿主病(cGVHD)治療薬	発売（日本）：製品名 レズロック錠200mg （2024年5月22日発売） 発売（韓国）：製品名 REZUROCK Tablets （2024年11月発売） 承認（台湾・タイ）
	DMB-3115 （ウステキヌマブ後続品）	バイオ後続品	尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病 /潰瘍性大腸炎	発売：（欧州・米国・中東）製品名IMULDOSA （2025年1月以降順次発売） 承認（中東・欧州） 申請（海外） Phase I（日本）
	HBI-8000 （ツシジノスタット）	ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤	切除不能または転移性悪性黒色腫治療薬	Phase III（日本・海外）**
	ME3183*	PDE4阻害剤	乾癬治療薬	Phase II（海外） （市場環境を踏まえて開発計画を再検討中）
	HBI-8000 （ツシジノスタット）	ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤	再発・難治性B細胞性非ホジキンリンパ腫治療薬	Phase Ib / II（日本）**

*自社創製
**国際共同治験

医薬品：開発パイプラインー 2

	開発コード名	薬効/作用	予定適応症	開発段階
ワクチン	コスタイベ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（レプリコンワクチン）、2人用バイアル製剤	発売（日本）（18歳以上）
	コスタイベ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（レプリコンワクチン）	Phase III（12～17歳）（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（成人・不活化ワクチン：起源株）	Phase III（18～40歳）**（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：起源株）	Phase III（6か月～11歳）（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：オミクロン株）	Phase III（6か月～12歳）（日本）
	KD2-396	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防（6種混合ワクチン）	Phase II（日本）
	KD-382	ワクチン	デング熱の予防（4価弱毒生ワクチン）	Phase II（海外）

*自社創製
**国際共同治験

医薬品：開発パイプラインー 3

	開発コード名	薬効/作用	開発段階
動物薬	KD-412*	ワクチン（牛）	発売（日本）：製品名ボビスアントアカバネ （2025年10月1日発売）
	MD-22-3002	抗炎症剤（牛、豚、馬）	発売（日本）：製品名フルニキシ注「meiji」 （2026年1月6日発売）
	ME4305*	抗菌性製剤（牛）	申請（日本）
	MD-22-1001-1	抗菌性注射剤（牛）	開発中
	ME4406*	飼料添加物	開発中

*自社創製

健康にアイデアを
meiji

- ・本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- ・本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- ・本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としたものではありません。